

2-7. 重点モニタリング調査地域における人為的インパクトの整理

西大久保重点モニタリング調査地域は、周辺には農地と市街地がモザイク状に分布し、市街地化が進んだ地域である。調査地域は雑木林であるが近年は管理が行われず、里山としては周辺から孤立した状況となり、特に法律等による指定もなく、開発の危険にさらされている。

一方鎌北湖重点モニタリング調査地域は、ダム建設によりできた人造湖であるため、過去に大きな人為的インパクトを受けたが、現在は周辺の山地が全て県立自然公園に、さらに鎌北湖周辺地域は県立自然公園特別地域に指定され、厳重に保護されていた。しかし、第1回調査以降に林道建設が行われ、調査地域内で土地改変が行われた。

2-7-1. 景観構成要素の分布

①鎌北湖地域（図2-7-1①）

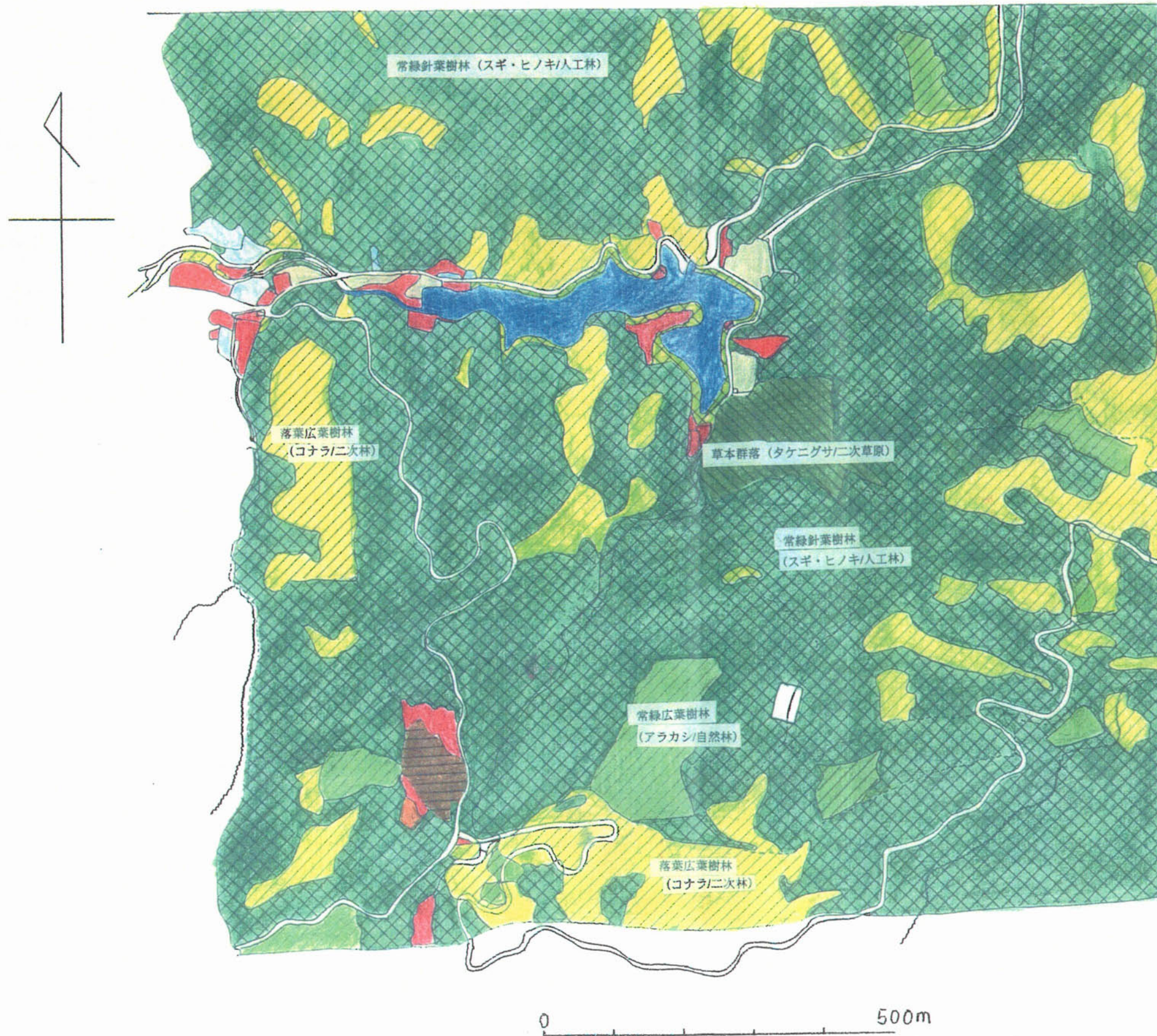
大部分はスギ・ヒノキの植林地からなる針葉樹林であり、それに次いで広く分布したのは所々に広がるコナラ二次林などの広葉樹林であった。人為的インパクトとしては、鎌北湖南東部の植林が、伐採された後公園として整備され、公園内を回遊できるような遊歩道が設けられたことが挙げられる。また、調査地域の南端では、第1回調査中に始められた林道工事が完了した。この他は大きな変化は見られなかった。

②西大久保地域（図2-7-1②）

当該地域は、スプロール化が進行した農業地区で、市街地と農地が細かくモザイク状に入り組んでいた。比較的広い面積を占めるのは広葉樹林（二次林）で、国道49号の南東側および国道49号と越辺川に挟まれた部分に分布した。その他、越辺川北東側と調査地南東部の市街地の中心に広がる水田および、国道49号沿いに広がる畑地は比較的まとまって分布した。

第1回調査時以降、この地域は下記に挙げた人為的インパクトにより、面積的には小さいが確実な影響を受け、全体的に市街化が進んだ。

- ・ 公共施設、宅地などの造成→市街地（都市的土地利用）の拡大
- ・ 耕作放棄の急速な進行→田、畑、桑畑などにおける休耕田または耕作放棄地の増加。特に桑畑の耕作放棄は顕著で、畑や果樹園にも転用された。
- ・ 雑木林内の管理の放棄→林床へのアズマネザサの侵入

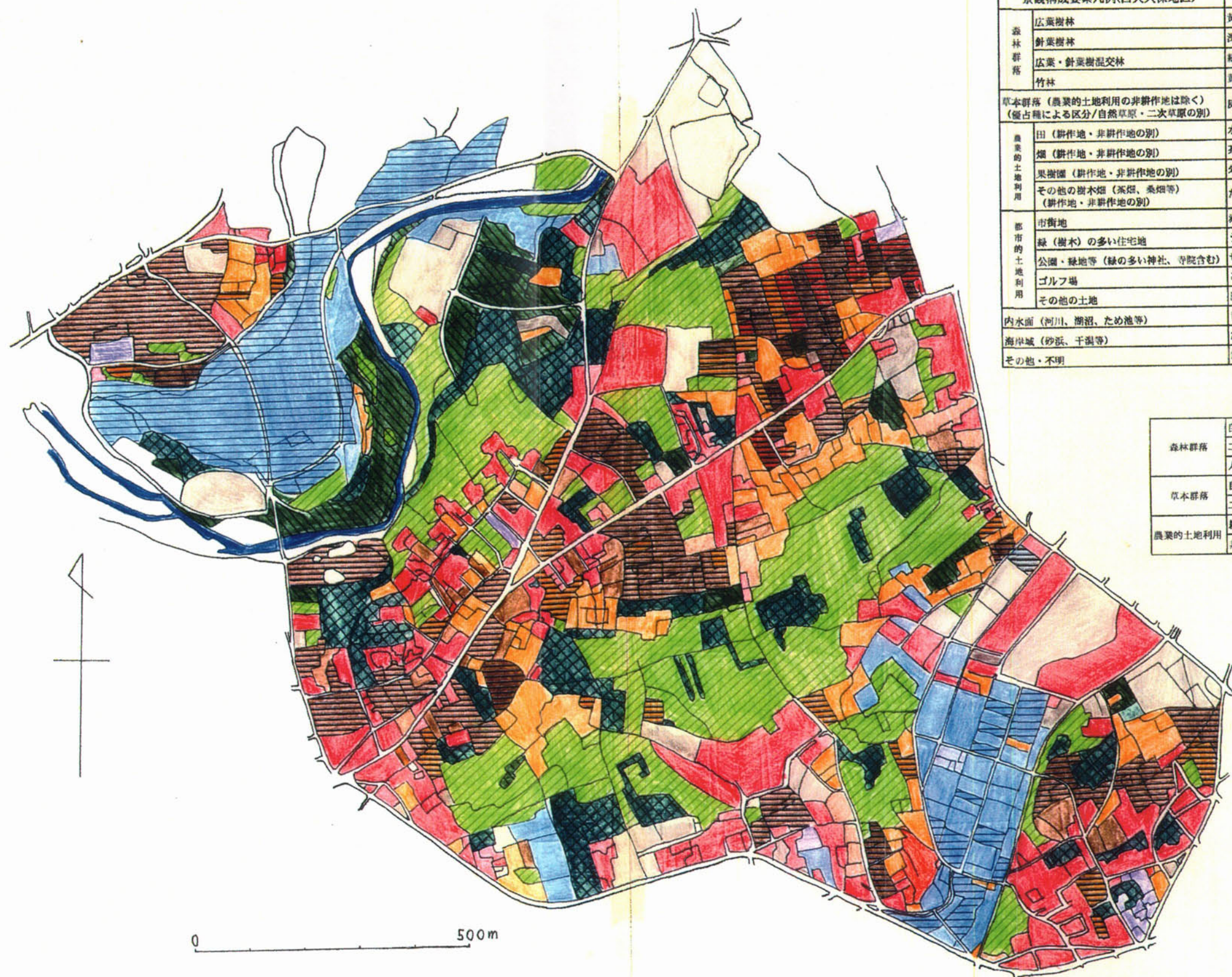


景観構成要素凡例(鎌北湖地区)		色
森林群落	広葉樹林	黄緑色
	針葉樹林	深緑色
	広葉・針葉樹混交林	緑色
	竹林	黄色
草本群落 (農業的土地利用の非耕作地は除く) (優占種による区分/自然草原・二次草原の別)		灰緑色
農業的土地利用	田 (耕作地・非耕作地の別)	水色
	畑 (耕作地・非耕作地の別)	茶色
	果樹園 (耕作地・非耕作地の別)	朱色
	その他の樹木畑 (茶畑、桑畑等) (耕作地・非耕作地の別)	だいだい色
都市的土地利用	市街地	赤色
	緑 (樹木) の多い住宅地	うす紫色
	公園・緑地等 (緑の多い神社、寺院含む)	せいじ色
	ゴルフ場	こげ茶色
	その他の土地	灰色
内水面 (河川、湖沼、ため池等)		青色
海岸域 (砂浜、干潟等)		たまご色
その他・不明		無色

		凡例
森林群落	自然林	
	二次林	
	人工林	
草本群落	自然草原	
	二次草原	
農業的土地利用	耕作地	
	非耕作地	

図2-7-1① 景観構成要素分類図

(第2回・埼玉県 鎌北湖重点モニタリング地域)



景観構成要素凡例(西大久保地区)		色
森林 群 落	広葉樹林	黄緑色
	針葉樹林	深緑色
	広葉・針葉樹混交林	緑色
	竹林	黄色
草本群落 (農業的土地利用の非耕作地は除く) (種占率による区分/自然草原・二次草原の別)		灰緑色
農業的 土 地 利 用	田 (耕作地・非耕作地の別)	水色
	畑 (耕作地・非耕作地の別)	茶色
	果樹園 (耕作地・非耕作地の別)	朱色
	その他の樹木畑 (茶畑、桑畑等) (耕作地・非耕作地の別)	だいだい色
都市的 土 地 利 用	市街地	赤色
	緑(樹木)の多い住宅地	うす紫色
	公園・緑地等(緑の多い神社、寺院含む)	せいじ色
	ゴルフ場	こげ茶色
	その他の土地	灰色
内水面(河川、湖沼、ため池等)		青色
海岸域(砂浜、干潟等)		たまご色
その他・不明		無色

		凡例
森林群落	自然林	□
	二次林	▨
	人工林	▩
草本群落	自然草原	□
	二次草原	▨
農業的土地利用	耕作地	▨
	非耕作地	□

図 2-7-1 ② 景観構成要素分類図 (第 2 回・埼玉県 西大久保重点モニタリング地域)